



大きな『機』が2度訪れます。
まず一つ目の『機』は、平成30年、2018年。この年は、『北海道』と命名されてから150年目の節目にあたるとともに、登別市では登別温泉開湯160年、市民憲章制定50周年を迎えます。



▲平成30年に開湯160年を迎える登別温泉（写真『極楽通り』）

そして、二つ目の『機』は、平成32年、2020年。同年7月に世界的なイベントである東京オリンピックが開催され、同じく8月には、私たちのまち『のぼりべつ』が市制施行50周年という大きな『機』を迎えます。

この大きな二つの『機』は、登別市にとって商業活動の活性化や観光産業などの盛り上がりなどが期待されるものと考えています。大きな『機』に人々の心は活性化され、自ら何かをなしたいという自然な流れが生まれ出るこの時期を大切なチャ

ンスと捉え、事前に準備することがとても肝要です。

平成29年度の市政執行における基本的な考えについては、第3期基本計画の第1章から第6章を基礎とし、この『機』に向けた大切な準備期間の1年に取り組む主な重点施策について、6つのキーワードに大別して申し上げます。

キーワード

- ◎ 未来を応援するまち
- ◎ 自然災害に強いまち
- ◎ 力強い地域経済が開かれるまち
- ◎ 堅固な都市基盤で安全安心なまち
- ◎ 生涯を通して学び、活躍できるまち
- ◎ 誇りと愛着をもてるまち

未来を応援するまち

将来も市民が安心して暮らすことができるよう、子育て環境の整備や各種福祉施策の推進、地域医療の確保に努める

まちの未来を輝くものとするためには、子どもたちが健やかに成長することができる、地域の中で子どもたちを守り育てる良好な環境づくり、高齢者や障がい者などが安心して暮

らすことのできる環境を整えるため、次の取り組みを進めていきます。

○子育て施策

子ども・子育て支援新制度が始まることから3年目を迎え、平成29年度から市内の私立幼稚園で新制度の幼稚園や認定こども園への移行を検討している施設があるなど、市内の保育・教育環境は大きく変化しようとしています。



▲幼保一元化施設『コロボックルの森』で健やかに育つ子どもたち

また、平成29年度は、子育て支援全般の5カ年の取り組みを示した『登別市子ども・子育て支援事業計画』の中間年次にあたり、この計画の着実な推進に向けた重要な1年となります。

幼児期は、人間形成の基礎を養う重要な時期ですので、市立保育所の保育に民間の幼児教育を加えた環境

を創生するため、将来の認定こども園創設を目指し、段階的に一部、公立保育所の民営化を進めていきます。さらに、新制度に移行しやすい環境を整え、幼児期の子育てを少しでも応援できるよう、市独自の保護者負担の軽減策を実施していきます。

○小・中学生の教育環境の向上

4月8日から鷺別小学校新校舎において、全学年での授業を開始します。児童生徒の放課後の時間帯を安全で安心に過ごせる環境整備として、平成30年2月の供用開始を目標に鷺別児童館を学校隣接地に併設するとともに、児童館内において放課後児童クラブを実施していきます。新児童館の供用開始までの間については、鷺別小学校新校舎内において、放課後子ども教室と連携しながら放課後児童クラブを実施し、子どもたちの一日の生活を通じた環境の向上を図ります。

さらに、育児相談の場の確保や育児不安の解消に努め、幼小連携がスムーズに図られ、就学児童と未就学児童との異年齢交流や保護者同士の交流を行うことができるよう、児童館内に地域子育て支援拠点となる子育て支援センターを併設します。

平成29年度は本體工事をを行い、子どもが過ごしやすく魅力あふれる環